

(別紙 1)

令和 7 年度 障害者のデジタル技術活用支援者養成講習会 コース概要

下記の 3 つのコースの中から、ご希望のコースを選び、お申し込みください。
東京都障害者IT地域支援センターのスタッフ(コースによっては外部講師同行)が、指定日時に会場まで出張し、選択されたコース内容で実施します。

※時間内に体験できる範囲で実施いたします。特に重点的に学びたい分野や機能がある場合は、事前にご相談ください。

◆コース概要

1. 初心者向けアクセシビリティ体験コース（新設）

対象	これから支援をはじめたい、IT に不慣れな職員、支援者
内容	Windows や iOS に標準搭載されているアクセシビリティ機能(支援技術)の基本を体験しながら学びます。「見る」「聞く」「読む」「操作する」といった利用場面ごとに、次のような支援機能を実際に試します。 ・画面拡大・コントラスト調整などの視覚支援機能 ・音声読み上げや字幕表示などの聴覚支援機能 ・入力支援(スクリーンキーボード、音声入力、スイッチコントロールなど) ・設定での読みやすさ向上機能(フォント調整・読み上げ設定など)
狙い	障害の種類を問わず、「デジタル技術を活用して支援できること」の全体像をつかみ、支援者自身が“体験を通して理解する”ことで、支援の第一歩を踏み出せるようにすることを目的としています。
主に対象となる障害	視覚・聴覚・肢体不自由・発達など幅広い障害分野

2. アプリ体験コース

対象	幅広い障害分野でデジタル支援の活用に関心のある職員、支援者
カリキュラム	障害種別や支援目的に応じて活用できる iPad アプリを、横断的に広く紹介・体験します。 視覚支援、コミュニケーション支援、スケジュール管理、学習支援など、さまざまな分野のアプリに触れ、機能や活用イメージをつかむことができます。 ご要望に応じて、ピンポイント(個別課題)の内容に変更することも可能です。
コースの活用	支援の現場で「どんなアプリがどんな人に役立つのか」を理解し、 利用者のニーズに応じた“支援のヒント探し”につなげることを目的としています。
主に対象となる障害	視覚・聴覚・肢体不自由・知的障害 等

3. 現場実践サポートコース（新設）

対象	支援の現場で具体的な課題に直面している職員、支援者
内容	外部講師が現場に同行し、実際の利用者や支援環境をもとに、課題の整理から対応策の検討・実践までを支援します。現場で使用している支援ツールを活用しながら、アクセシビリティ機能やデジタル機器の設定・操作方法などを一緒に検証する実践的なワークです。「困りごと」をその場で解決するだけでなく、今後も現場で継続的に活かせる支援ノウハウを共有・蓄積することを目指します。 (支援の例: 入力機器の工夫、環境設定、コミュニケーション支援)
コースの狙い	現場で生じるリアルな課題を出発点に、支援者自身が課題の背景を理解し、効果的な支援方法を自ら考え、実践できる力を養うことを目指します。 現場の実情に即した“伴走型の学び”を通して、応用力・課題解決力を高めるとともに、支援者間の連携や学び合いの促進を図ります。
主に対象となる障害	肢体不自由、視覚障害

※本コースは、その場で全ての課題を解決することを目的としたものではありません。現場の状況を共に見ながら、支援の工夫や次の一步を考えるための場として実施します。ご理解の上、お申込みください。